opusdei.org

年間第8週・水曜日 66. 仕えることを学ぶ

ーキリストの模範。「仕えることは支配する事」。一私たちは、教会と社会に、周りの人達に、様々な奉仕をすることができる。一適切な専門職において喜んで仕える事。

2024/05/28

年間第8週・水曜日

66. 仕えることを学ぶ

- ー キリストの模範。「仕えることは 支配する事」。
- 私たちは、教会と社会に、周りの 人達に、様々な奉仕をすることがで きる。
- 一 適切な専門職において喜んで仕える事。

66.1 キリストの模範。仕えることは 支配することである

ミサの福音¹は、天の国での地位を ゼベダイの息子たちがお願いしたと 述べています。他の弟子たちはこの 野心に気づいたとき、2人の兄弟に 憤慨しました。それは彼らを苛立た せるほどの並はずれた要求ではあり ません。むしろ、皆が、自分たちも ヤコブやヨハネと同じように、ある いは二人以上に卓越した席を占める

にふさわしいと考えていたからで す。イエスはご自分の教会の礎にな ろうとしていた彼らの野心をご存じ でした。イエスは弟子たちに、家臣 を圧迫したり支配したりする君主の ように振舞うことはできないと教え られます。教会の権威はこれとは全 く異なるでしょう。事実、全く逆で す。あなたたちの間で偉い者は誰で も仕える人でなければなりません。 そして、あなたたちの間で一番にな りたい者は誰でも皆の僕(しもべ)で なければなりません。これは偉大で あるための新しいやり方、新しい支 配です。主はこの新しい威厳の根拠 とその理由を示します。人の子もま た什えられるためではなく什えるた めに、多くの人々の贖いとしてご自 分の命を与えるために来られたから です。

キリストの生涯は、人々への絶えず 続く模範的な助けであり、その教え は他の人々に仕えるために絶えず続

く招きです。キリストは、教会で権 力を行使する者とすべてのキリスト 者が従うべき模範です。イエスは、 世の中を裁くことになる裁判官であ る神ですが、ご自分を押しつけるこ とはなさいません。愛のためにすべ ての人に牛命を与えるところまで什 えられます²。 これこそ、最初の者 となる方法です。使徒たちはこのよ うに理解しました。特に、聖霊降臨 の後で、そう理解したのです。後 に、聖ペトロは言っています。「わ たしは長老の一人として、また、キ リストの受難の証人、やがて現れる 栄光にあずかる者として、あなたが たのうちの長老たちに勧めます。あ なたがたにゆだねられている、神の 羊の群れを牧しなさい。強制されて ではなく、神に従って、自ら進んで 世話をしなさい。卑しい利得のため にではなく献身的にしなさい」³。 聖パウロもまた記しています。「わ たしはだれに対しても自由な者です が、すべての人の奴隷になりまし

た。できるだけ多くの人を得るためです」 4 。

しかし、主は、使徒たちだけではな く、弟子たちや従う者にも世紀を越 えてお話しになります。主を真似 て、人を助け、援助を差し出すこと には、特別の誉れがあると教えられ ます。「この尊厳は、仕えられるた めではなく〈仕えるために〉来られ たキリストの模範に一致して、〈仕 えよう〉という私たちの覚悟に表さ れます。そうです。キリストのこの 光を受けて、〈仕える〉ことによっ てのみ真に〈支配する〉ことができ るのです。同時に、〈仕える〉ため には霊的な成熟が要求されます。適 切かつ効果的に他の人々に什えるに は、そのような支配の仕方ができる ようにする諸々の徳」5、たとえば 心の謙遜、寛大、剛毅、快活のよう な徳を身に着ける必要があるからで す。これらの徳を備えることによっ

て神と家族、友人と社会に仕える生き方が可能になるのです。

66.2 教会、社会、周囲の人々に尽く すことができる様々な奉仕

キリストの生涯はたゆまぬ人々への 奉仕、物質的な手段で仕えるに付えることを 含む奉仕です。イエスは人々に付えては人々に付って 添い、教え、慰め、ついには人のようないに命を与えます。弟子であめいと思う私たちが、次に、周囲いうを したいとに惜しみなく与えたいとに啓えるではようないできるでしょうないできるでしょうか。

受難の前夜、キリストはこのようなことをどう行わなければならないかという特別に意味のある模範を示したいと思われました。過越しを祝う夕食の時、「主は立ち上がって腰にするという。それから、たらいに水をとわれた。それから、たらいに水をくんで、弟子たちの足を洗い、腰に

まとった手ぬぐいでふき始められ た」 6。 主は召使いの仕事を行いま した。再び、模範と業でお教えにな ります。高慢な思い上がりから夢中 になって言い争う弟子たちの前で、 イエスは腰を低くして召し使いの役 目を喜んでお果たしになる。キリス トのこの優しさには心打たれます。 私がこうするのであるからお前たち はなおさらそうすべきだとはおっ しゃいません。主は弟子たちと同じ 立場に自らを置き、強制せずに、彼 らの寛大さの不足を優しくお咎めに なるのです。

「最初の12使徒に対するのと同じく、私たちにも、主は示唆し続けておられます。「わたしがあなたがたもなたがたもすりに、あなたがたもするように」(ヨハネ13・15)と、謙遜の模範をお示しになります。柔和で謙遜な心で人々に仕えることをあなたちが学ぶために、私は召し使いになった、と仰せになるのです」

する直接の機会を与えます。近づく 人に惜しみなく注意を払い、弟子た ちの足を洗うキリストのことを考え るならば、職業上の義務として私た ちに任された人たちに対して、強力 な刺激となるでしょう。非常に強い 関心を持って接することでしょう。

わたしは仕えられるためではなく、 什えるために来たという主の言葉を 頻繁に黙想することは、必要とされ てはいても気が進まないような仕事 を私たちが嫌がらずに取り組むのに 役立つでしょう。私たちは、主が行 われたように仕えるでしょう。家庭 生活は、度々、気づかずに過ごすか も知れない、多くの小さなことで、 この奉仕の精神を示す素晴らしい場 所です。これらはキリストが現存さ れるところで友好的に生きるのに役 に立ちます。私たちが増やそうと努 力している、これら小さな奉什の業 はまた、絶え間ない愛徳の実行であ り、ブルジョア化を避け、神との一

66.3 喜んで仕え、専門職において有 能でありなさい

群衆がまわりに押し寄せる時や弟子 たちの足を洗う時に、緊張したり、 苛立ったり、嫌がったりする主を想 像することはできません。主は、喜 んで、朗らかに、快く仕えます。そ れは、私たちが、神や社会、隣人され の奉仕の義務をどのように果たさし ければならないかということを示し

てくれます。「喜んで主に仕えよし 9。聖霊は詩編を通して私たちに命 じています。それ以上に、主は、他 の人々に仕える者に喜びやこの世の 幸福さえ約束します。弟子たちの足 を洗った後、イエスは言われます。 「このことが分かり、そのとおりに 実行するなら、幸いである」¹⁰。神 に自らを捧げたり、時には些細なこ とで、自らを他人に与えるための機 会を探したりするのは、これこそ、 神に自らを捧げ、自らを他人に与え る人の素晴らしい特質と言えるで しょう。私たちが誰かに微笑んで喜 んで仕える時、ますます感謝される こととは別に、あたかも私たちの行 いによって高められた徳を獲得した かのようになります。また、不愉快 で嫌な奉仕を捧げる機会や義務が生 じたときには、「すべての人の召使 のように、大きな喜びと深い謙遜の 心で遣り遂げなさい。そうすれば徳 と恩恵の膨大な宝を手に入れるで しょう | ¹¹。時には、非常に難しく

感じることがあるでしょう。そのような時には、こう祈りましょう。 「イエス、どうか微笑(ほほえ)むこ

とができますように| 12。

役に立つ奉仕をしたいのなら、仕事 や任務を果たすにあたり、有能でな ければなりません。この有能さがな ければ、どんなによい意向で成し遂 げたこともわずかな価値しかありま せん。そこで、皆さんの仕事の座石 の銘として、「役に立つために什え る」ことをお教えしたいのです。何 かをしたと言えるためには、まずや り遂げなければなりません。託され た仕事を立派に果たすためには、立 派な什事をしたいという望みだけで は充分ではなく、仕事に熟練しなけ ればなりません。そして、もし立派 な仕事をしたいと本心から望むな ら、可能な限り、完全な仕事を成就 するために必要な手段をすべて講ず ることでしょう¹³。

人々のための援助と配慮は、見返りを望まず、寛大な心で行いましょう。奉仕の業は心を大きく広げ、優かにしてくれます。私たちがイは優エさくを真似るなら、些細なことや小れてらなら、もちばであっても、考慮にただいます。私たちは充分にご褒美をいただいたと感じます。

ない援助を受けるのを習慣的にどう にかして避けるようにしているかど うか、自分を見て調べましょう。権 威や地位や年齢を理由に、世話と援 助を頼んだり、また要求したりする ことは、人間的な面からみてもけし からぬことでしょう。

私たちは、いつも聖家族を数えきれ ない犠牲によって保護しようとし た、信仰深く、賢明な主の召し使 い、聖ヨセフに頼ります。ヨセフ は、惜しみなく、限りない援助をイ エスとマリアに与えました。自分の 家族や共に生きる人々に、生涯で得 る地位が何であろうと専門職の仲間 や友人に、またちょっとした情報や 親切を私たちに願う人々にも、聖ヨ セフと同じような心で仕えることが できるよう、聖ヨセフにお願いしま しょう。聖なる太祖の助けによっ て、私たちは彼らの中にイエスとマ リアを見るでしょう。このようにし

て、私たちが彼らに仕えることが容易になるでしょう。

(フランシスコ・フェルナンデス・ カルバハル『神との対話』)

- ¹マルコ10:32-42
- 2 ヨハネ15:13 参照
- 3 1ペトロ5:1-3
- 4 1コリント9:19
- ⁵ 聖ヨハネ・パウロII世, Encyclical, Redemptor hominis, 2 1
- 6 ヨハネ13:4-5
- $\frac{1}{2}$ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『神の朋友』. 103

- [®] 聖ホセマリア・エスクリバー, Letter, 9 January 1 9 3 2
- 9 詩編,100:2
- ¹⁰ ヨハネ13:17
- ____ J.Pecci, (Pope Leo XIII), The Practice of Humility, 3 2
- ¹² 聖ホセマリア・エスクリバー, 『道』、626参照
- 13 聖ホセマリア・エスクリバー, 『知識の香』, 5 0

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VIII-sui/ (2025/12/12)